

# 第13回 梨大胚培養士アカデミーセミナー 開催のご案内

日時:2024年6月11日(火) 14:50~16:20

教室:S1-21

## 「胚培養士の仕事やキャリア形成を考えよう ～beyond labs, beyond sea」

岡本 加奈子

Cook Medical Japan G.K. / クックメディカル合同会社  
Med Surg 事業部Reproductive Health部門—Clinical specialist

山梨大学の高度生殖補助技術センターのみなさま、初めまして。クックメディカルのリプロダクティブヘルス部門でClinical specialistをしている岡本加奈子と申します。実は私も元は胚培養士です。

皆さんはご自分の今後のキャリアを考えていますか？大学院はまさに、そのような時期ではないかと思います。でも、運命とはわからないものです。私は自分が大学卒業後に胚培養士になるなんて想像もしていませんでしたし(大学では寄生虫と戯れていました)、そこからまさか大学院に行き、なぜか遺伝子や生物学を学び、そして企業に就職するなんて。。。夢にも思っていませんでした。更に付け加えると、大学院に行きながら胚培養士もしつつ、結婚して2人も子供を産みました。おまけに転職まで・・・実に欲張りで充実した、大変な日々を送ってきたなど我ながらびっくりします。

企業に就職し長らく日本人1人という状況下、英語を強制的に話さざるを得なくなり、今では海外のスタッフと日常的にコミュニケーションをとります。おかげで色々なことが別の角度から考えるようになりました。よくよく考えてみると、私たちの思考は常識やバイアスでがんじがらめになっている気がします。胚培養士の仕事やキャリア形成を考えた時に、こんな疑問が湧いてきませんか？

胚培養士が活躍できるのはクリニックのラボだけなのでしょうか？

日本のラボにしか勤務できないのでしょうか？

日本のラボで行っていることは、海外でも一般的なのでしょうか？

もし違うなら、どっちが良いのでしょうか？

私たち日本人には残念ながら言葉の壁がついて回ります。これは情報を得るのに常に障害となり、またバイアスを形成し、往々にして視野を狭くしてしまいます。ですが大学院で学ぶことを選んだ皆さんに、世界は制限なく可能性に満ちていることを知っていただけたら良いなと思います。

問い合わせ : 高度生殖補助技術センター 岸上哲士(8705)